

土器！ 埴輪！ 古墳！ 古墳時代の芳賀

図総合情報館 ☎028(677)2525

芳賀町には、約100基の古墳が存在していました。古墳時代の遺物（土の中から発見されたもの）もたくさん出土しています。町内で出土した埴輪や土器から、古代のロマンに想いをはせてみませんか。

古墳とは？

高く土盛りをした古代のお墓のこと。3世紀後半～7世紀に、豪族などの有力者により作られました。



埴輪とは？

古墳の上や周囲に並べられた土製品のことで、円筒型のものや何かの形をかたどったものなどがあります。



土器とは？

粘土を焼いて作った大昔の器のことです。



ガラス製小玉・勾玉

まがたま

二子塚西古墳（祖母井字上野原）古墳時代後期



小さな玉はガラス製です。日本にガラスが伝わったのは、弥生時代の頃、中国の漢からだといわれています。古墳時代にかけて、小玉や管玉、勾玉に加工されていたようです。

勾玉は、位の高い人が持つ勲章や宝石のようなものであったといわれています。これらの鉤物は県外からの搬入品と考えられています。

盾形埴輪

町指定文化財

千が窪古墳（給部字千ヶ久保）古墳時代後期

盾は本来、木または革で作られていました。この埴輪は、それを模したと考えられています。表面に描かれている三角模様には魔除けの意味があるとされています。

芳賀町で発見された盾形埴輪は、赤・白・黒の三色の顔料で色づけされ、栃木県内では最大級の大きさです。



137cm

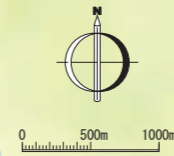


▲亀の子塚古墳（西高橋字中峯）

- 縄文時代の遺跡
- 弥生時代の遺跡
- 古墳時代の遺跡
- 奈良・平安時代以降の遺跡



芳賀町の遺跡



43cm

轆形埴輪

町指定文化財
千が窪古墳（給部字千ヶ久保）古墳時代後期

轆とは、弓を射る時に弦が腕に当たらないようにする道具です。矢を射たときに弓の弦が轆に当たる音に魔除けの効果があると考えられています。その轆をかたどった埴輪です。



59cm

円筒埴輪

町指定文化財
千が窪古墳（給部字千ヶ久保）古墳時代後期

円筒埴輪は筒状で、古墳の周りに並べられる最も多く見つかる埴輪です。

芳賀町では、通常のものより大きめに作り、棺として利用された円筒埴輪が見つっています。主たる埋葬者の近親者で、かつ少年または少女が埋葬されたと考えられています。

朝顔形円筒埴輪

町指定文化財
千が窪古墳（給部字千ヶ久保）古墳時代後期

土管状の円筒埴輪の上に壺をのせた形の埴輪です。町内で出土したこの埴輪は口縁部が極端に開いており、壺の形がかなり誇張されていると考えられます。

朝顔のような形であることから、朝顔形と名付けられています。



86cm

総合情報館で実物を見てみましょう！

古墳時代の芳賀

—土器・埴輪・古墳—

5月3日(水)～7月9日(日)

時間 9:30～17:00

(土日祝日は9:00～)

場所 総合情報館展示室2

観覧 無料

関連講座①芳賀の古墳—見方、歩き方—

日時 6月3日(土) 14:00～15:30

定員 30人(要申込)

講師 秋元 陽光氏(日本考古学協会会員)

関連講座②埴輪の鳥はどんな鳥—埴輪埴輪をめぐって—

日時 6月10日(土) 14:00～15:30

定員 30人(要申込)

講師 賀来 孝代氏(日本考古学協会会員)

古墳時代の芳賀

5.3(水祝)～7.9(日)

